

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和7年11月11日

釧路市議会議長 畑中 優周 様

会 派 名 自民市政クラブ

代表者名 大澤 恵介



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受 命 者	高橋 一彦
出 張 先	石巻市
期 間	令和7年10月31日～令和7年11月3日（4日間）
用 務	全国鯨フォーラム2025石巻
調査（研修） 結果等の概要	別紙参照
備 考	

- 注）1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書（原本）とともに会派で保管すること。
- 2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

全国鯨フォーラム2025in石巻

開催目的

- * 捕鯨に縁ある全国の自治体及び捕鯨関係者の連携を深めること
- * 商業捕鯨における問題と国内世論
- * 捕鯨文化の継承、普及啓発
- * 鯨類科学調査への理解の浸透など
- * * パネルディスカッション

開催日時 2025年11月1日から2日まで

会場 マルホンまきあーとテラス(石巻)
11月2日 エスカッション(鮎川地区)

参加者 高橋 一彦

共済

(一財)日本鯨類研究所 石巻市 石巻くじら協議会)

全国鯨フォーラムは捕鯨に縁がある自治体で構成する「ほげいを守る全国自治体連絡協議会」の加盟自治体において鯨類資源の持続的な利用や鯨食文化の継承についての取り組みを全国に発信することを目的に平成19年の石巻市開催から始まり、全国で継続開催されております。

2022、2023年はコロナ禍の影響でなったため、昨年11月3年ぶりの太地町での開催となり北海道から沖縄まで全国各地の関係者の方々が集まりました。

フォーラムは色々な方からこれからの鯨文化や鯨食文化をどの様に次世代に繋げるかについて議論されました。

宮城県石巻市は三陸リアス式海岸の南の端に位置し、複雑に入り組んだ海岸線が八江こと天然の良港を形成し、古くから漁業を生業とする人々が暮らしております。

その最も先端部にあるのが捕鯨基地「鮎川」であります。

本市の鮎川で捕鯨が行われるようになったのは、1906年にノルウェー式の近代捕鯨技術を備え、山口県の東洋漁業株式会社が事業所を構えたことです。

その後、1960年代をピークとして国内トップの捕鯨基地としてさかえました。

1985年ごろ、当時ミンク鯨の捕鯨が解禁となる4月1日は鮎川周辺のほとんどの家庭の食卓に鯨の刺身が登ったものです。

「鯨」は石巻のごく普通だけでも欠くことのできない大切な食文化なのです。

釧路市は、昭和20年～30年代半ばまでクジラの捕鯨頭数が1位に輝く日本有数の捕鯨基地でした。

商鯨捕鯨モラトリアム発行後、捕鯨の歴史が一旦途絶えますが、平成14年北西太平洋鯨類捕獲調査の一環で始まった釧路沖調査捕鯨を契機に、官・民で組織した「釧路くじら協議会」が中心となって、鯨食文化の普及と調査の副産物である鯨肉の消費拡大に取り組むなど、「くじらのまちづくり」を進めています。

また、平成21年には「全国鯨フォーラム2009釧路」を開催し、釧路市における鯨類の歴史や特徴ある鯨食を全国に発信していますが、官・民が協力して市全体で活動を盛り上げていかなければ捕鯨基地存続が危ぶまれると思います。

又、開催翌日である、11月2日には、石巻くじら振興協議会が中心となり、くじら探訪ツアー、企画展示、クジラフェア、水産フェス出店など、捕鯨産業の維持と鯨食文化を推進する活動を行っておりました。

四方を海に囲まれた我が国では、5000年以上前から鯨を貴重な食料として利用してきました。

現在も、全国各地で捕鯨文化と鯨食文化が継承されてます。

鯨を食べた経験のない世代が増え続け、捕鯨文化と鯨食文化の継続が極めて危機的の状況にあります。

商業捕鯨の停止、大震災による復興など、取り巻く環境はたいへん厳しいものがありました。

そんな中、令和元年の商業捕鯨再開により、地域経済の再興が期待されています。

全国鯨フォーラムは、捕鯨の縁のある自治体で構成する「捕鯨を守る全国自治体連絡協議会」の加盟自治体において、鯨類資源の持続的な利用や継承についての取り組みを全国に発信することを目的としております。